

地質ニュース

昭和 51 年 3 月

第 259 号

1 9 7 6

解 説	川崎地区水位・水質観測井について……………河内英幸・1 ～その1 坑井編①～	福田 理 垣見 俊弘 河内 英幸 高木 慎一郎 田中 信
国際会議	EROS 計画と第1回W.T. PECORA記念シンポジウム ……長谷 紘和…15	
	光波測距儀 CUBITAPE DM-60 による実験……………磯橋 本 巳代次…26	
	“福神岡の場”の海底噴火情況……………佐藤 孫七…31	
	南島つれづれの記～その2～……………矢崎 清貫…36 大津波でできた多良間島	
海外事情	トルコのクロム鉱床……………高島 清…47	
	対島一五島海域表層底質図……………58	

編 集 地質調査所

表紙の写真

球 顆 状 流 紋 岩

珪長質でガラス～隠微晶質石基をもつ火山岩には “スフェルライト” (球顆) がしばしば含まれる。普通は径2～3cmの球体または楕円体で針状の長石 細粒の珪酸鉱物などの放射状集合体からなりしばしば同心層状構造が発達する。流紋岩のような高粘性の溶岩が急冷するとガラスになり易い。ガラスが完全に常温まで冷却固結するまでに脱ガラス化がおこり 珪長鉱物の集合をつくることが多い。スフェルライトもこのような過程でできると考えられている。写真は飛騨高原を北に向って流下する小鳥川の沿岸に分布する白亜紀末の 小鳥川流紋岩類中の溶岩にみられるスフェルライトである。写真の一部にみられるように伸びたものは割目から脱ガラス化が起ったものであろう。このスフェルライトは酸性斜長石と石英の集合体である。なお このような見事なスフェルライトは 水石の愛好者などからは “紋石” などと呼ばれ人気がある。

(文 地質部 河田清雄 写真 正井義郎)

発 行 株式会社 実業公報社